様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　5 月　9 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2012
課題番号：22320084
研究課題名（和文）日本伝来宋版一切経の角筆点の発掘と東アジア言語文化交流の研究
—醍醐寺蔵本を基に—
研究課題名（英文）The Study of the influence of the language culture in the ancient East Asia, and the stylus gloss in the Sung dynasty in all the Buddhist sutras
研究代表者
小林　芳規（KOBAYASHI YOSHINORI）
広島大学・文学研究科・名誉教授
研究者番号：10033474

研究成果の概要（和文）：醍醐寺蔵宋版一切経 6,102 帖に書き入れられた角筆情報を加えた目録出版を期し，その精査を基に，日本に伝来した宋版一切経の角筆点の発掘と東アジア言語文化の交流と影響関係を考察することを目的とする本研究は，2010～2012 年に 7 回の現地調査を行い，書誌事項と共に角筆点の有無を再調査し，新たに 521 帖を加え約 8 割に角筆書き入れ帖を認めた。又，神奈川県称名寺蔵宋版一切経からも角筆点を認め，新羅写経の角筆仮名の解読を進めた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to conduct an influence-related investigation with interchange of the language culture in the ancient East Asia. For achievement of the purpose, We examined book published in the Sung dynasty all the Buddhist sutras possessed by Daigo-ji Temple. The investigation performed seven times in total during 2010-2012 years. As a result, We found the kanji by the stylus gloss and the insertion of many marks to 4,952 quires. In addition, we found the stylus gloss in the Shomyo-ji, and deciphered the stylus characters on the copy of a sutra of the Silla age in the Todai-ji Temple library.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2011 年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2012 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総　計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学，日本語学
キーワード：東アジア　角筆　朝鮮半島
宋版　一切経　醍醐寺
角筆文献　新羅華厳経

１．研究開始当初の背景

角筆という筆記具を使って，その尖端で紙面を押し凹ませて文字や絵や符号などを書いた古文献（角筆文献）は，1961 年（昭和 36 年）に第 1 号が日本で発見されてから半世紀を経る間に，中国大陸の漢代木簡・敦煌文献や韓国の初雕高麗版や新羅写経などからも発見されて，角筆が東アジアの漢字文化圏で曾て使われたことが分り，その実態や交流の問題を現存資料に即して具体的に解明す

ることが必要となっている。
その中で，漢字文化圏の中心的位置にあった中国大陸の寺院使用の角筆文献が発見された。北宋から南宋にかけて中国各地の寺院で開版刊行した宋版一切経である。その多くが日本に伝来し，その遺品が，京都醍醐寺蔵の 6,102 帖を始め，神奈川県称名寺の 3,236 帖など，16 ヶ寺に数千帖ずつが所蔵されている。
そこで，醍醐寺蔵の宋版一切経六千余帖の悉皆調査と角筆加点確認調査を，2007 年（平成 19 年）～2009 年（平成 21 年）の 3 ヶ年，科学研究費（基盤研究(B)，課題番号 19320066）の補助により実施した。書誌事項と共に角筆の有無を調べ，4,431 帖に角筆による漢字と諸符号の書き入れを見出した。引き続き精査が必要であった。

２．研究の目的
(1) 醍醐寺蔵の宋版一切経の六千余帖について，2007 年～2009 年の調査（第一次調査）では，角筆の書き入れの有無を調べるのと併行して，題記，印記，刻工名，捨銭刊記，巻末刊記など刊本としての書誌事項も採録し，目録の素稿も作成した。これを基に，2010 年～2012 年の 3 ヶ年で，補充・統一，精査・再確認を行う。

(2) 神奈川県称名寺の宋版一切経の一部が流出して，現在，愛媛大学附属図書館に所蔵されている。その『宗鏡録巻二十二』を調査した所，角筆による文法機能点や梵唄譜・合符などの書き入れが確認された。そこで称名寺の宋版一切経（金沢文庫保管）を調査する。

(3) 中国の敦煌文献・唐写経の角筆点との比較や，朝鮮半島の初雕高麗版・新羅写経の角筆点との比較を通して，日本の角筆点・訓点との影響関係を考察する。

(4) 当面の目標として，醍醐寺蔵の宋版一切経の六千余帖について，角筆情報を加えた宋版一切経目録の出版を期す。目録刊行とデータベース入力は醍醐寺の意向を踏まえたものであり，これにより広く関係研究者の利用の便に供すると共に，宋版一切経の角筆加点を通して，中国宋代の経典読解の実態解明を進展させる資とする。

３．研究の方法
(1) 本研究の主要な作業は，醍醐寺蔵宋版一切経 6,102 帖に書き入れられた角筆文字・符号等の精査を踏まえ，その情報を加えた目録出版を期した，第一次調査で作成した目録の素稿の統一・確認である。
そのためには原本に就いての調査が必要であり，醍醐寺に出張して行う必要がある。
目録出版という寺の意向を踏まえ，年間行事の都合で春 6 月（又は 5 月）と夏 8 月の年 2 回とし，1 回は 4 日（又は 6 日）間とし，3 年計画で，目録原稿作成を終える。
一方，原本調査に先立って，題記・巻末刊記など既撮影の巻首・巻末写真で予め確認しておく。この作業は，分担者・研究協力者により進めておき，必要に応じて原本に当る。

(2) 醍醐寺蔵の宋版一切経の角筆加点と比較考察するために，代表者と分担者内の関係者が，金沢文庫に出張して，称名寺蔵宋版一切経の角筆調査を行う。尚，代表者は新羅経の角筆点の調査・解読を行う。

４．研究成果
(1) 宋版一切経の角筆加点の発掘調査と精査
① 醍醐寺蔵本――折本 6,102 帖を現存し，平成 22・23・24 年の 3 ヶ年に亘る第二次調査（精査）で，4,952 帖（増加分 521 帖を含む）に角筆による漢字と諸符号の書き入れが認められた。計 7 回（1 回は 6 日乃至 4 日）の調査を，以下のように行った。
第 1 回　944 帖（89 函）を調査し，角筆書き入れ帖 742 帖（増加分 92 帖）（平成 22 年 6 月 1 日～4 日）
第 2 回　1186 帖（116 函）を調査し，角筆書き入れ帖 918 帖（増加分 80 帖）（平成 22 年 8 月 17 日～21 日）
第 3 回　1284 帖（122 函）を調査し，角筆書き入れ帖 1090 帖（増加分 85 帖）（平成 23 年 5 月 31 日～6 月 4 日）
第 4 回　1696 帖（170 函）を調査し，角筆書き入れ帖 1435 帖（増加分 173 帖）（平成 23 年 8 月 17 日～22 日）
第 5 回　992 帖（107 函）を調査し，角筆書き入れ帖 767 帖（増加分 91 帖）（平成 24 年 5 月 31 日～6 月 4 日）
第 6 回　補充調査，目録刊行の為の原本校正，写真撮影等（平成 24 年 8 月 17 日～22 日）
第 7 回　補充調査，目録刊行の為の原本校正，写真撮影等（平成 24 年 9 月 7 日～12 日）
この第二次調査は，角筆文字・符号等の情報を加えた宋版一切経目録の出版を当面の目標として行ったもので，第一次調査（平成 19・20・21 年の 3 ヶ年）で作成した素稿を基に，再調査（精査，統一）したもので，その結果，角筆の書き入れ帖が，新たに 521 帖加わり，全 6,102 帖の約 8 割に及ぶことが分った。
② 神奈川県称名寺蔵本（金沢文庫保管）の調査
称名寺蔵宋版一切経を，代表者と連携研究者が，平成 22 年 11 月 27 日・28 日に金沢文庫に出張して行い，3236 帖のうちの 5 函計 205 帖を調べ，宗鏡録など計 51 帖に角筆の文

法機能点・梵唄譜・合符等の書き入れを見出し，醍醐寺蔵宋版一切経の角筆点と同じ中国の加点であることを確認した。

(2) 醍醐寺蔵宋版一切経の第一次（平成 19～21 年）と今回の第二次第一回・第二回の成果を踏まえて，醍醐寺において 2010 年秋期特別展「宋版一切経の世界」が，平成 22 年 9 月 18 日から 12 月 5 日まで開催され，全 604 函と共に宋版の主要な帖 50 余帖が展示された。特に宋版に書き入れられた中国の角筆点を特殊なライトを点灯して初めて展示した。この陳列や解説執筆に代表者と分担者・連携研究者が協力した。又展示中に代表者が記念講演を行った。(小林芳規「宋版一切経に書き入れられた角筆点―中国宋代の経典読誦の跡を探る―」平成 22 年 10 月 24 日)

(3) 宋版一切経の角筆点との比較考察のために，東大寺伝来の新羅経の大方広仏華厳経に角筆で書き込まれた新羅語やそれに伴う諸符号の解読を，代表者が平成 22 年 8 月 2 日～4 日，平成 23 年 2 月 7 日～9 日，平成 24 年 2 月 8 日～10 日，平成 24 年 8 月 2 日～4 日，平成 25 年 1 月 28 日～30 日に東大寺において，引き続いて行った。

(4) 醍醐寺蔵宋版一切経 6,102 帖について，角筆情報を加えた目録出版の原稿（約 3100 頁）と解題（約 130 頁）と経典名索引等が成稿した。刊行は，本研究の終了後，平成 25・26 年の 2 ヶ年を費して，必要により原本調査も加えて，行う予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 28 件）

1. 山本真吾，「きらふ」続貂―宣命の言葉と漢文訓読語―，国語語彙史の研究，査読有，32，2013，pp17-29
2. 小林芳規，日本所在八・九世紀華厳経とその注釈書の加点，韓国「書誌学報」，査読有，39 号，2012，pp5-44
3. 佐々木勇，親鸞使用の声点加点形式について―坂東本『教行信証』声点の位置づけ―，訓点語と訓点資料，査読有，129，2012，pp1-18
4. 佐々木勇，興正寺蔵『淨土三經往生文類』(広本)の字音注について，浄土真宗総合研究，査読有，7，2012，pp81-98
5. 佐々木勇，親鸞加点本に呉音声調の年代差は無い，広島大学大学院教育学研究科紀要第二部，査読無，61，2012，pp1-7
6. 佐々木勇，鎌倉時代における呉音声調の位相差―親鸞加点本を資料として―，国語国文，査読有，82 巻 1 号，2012，pp15-33
7. 鈴木恵，「ことば」と身体運動（１），Ｆnet^(+)(授業の研究)，査読無，第 182 号，2012，pp34-34
8. 鈴木恵，「ことば」と身体運動（２），Ｆnet^(+)(授業の研究)，査読無，第 183 号，2012，pp34-34
9. 鈴木恵，骨董品市の角筆文献について，新大国語，査読有，第 35 号，2012，pp1-13
10. 青木毅，『方丈記』の用語と文体に関する一考察―『古今和歌集』仮名序の影響をめぐって―，國文學攷，査読有，第 213 号，2012，pp1-13
11. 佐藤利行，六朝漢語研究―「佛説菩薩睒子經」の場合―，広島大学大学院文学研究科論集，査読無，第 72 巻，2012，pp1-12
12. 佐藤利行・趙建紅，王羲之書翰中的詞彙，語言文化比較研究，査読有，創刊号，2012，pp10-17
13. 鈴木恵，山本半右衛門家の角筆文献について(2)，佐渡郷土文化，査読無，128 号，2012，pp19-25
14. 小林芳規，ヲコト点と訓読法との関係―同一経巻に異種のヲコト点が加点された資料による―，訓点語と訓点資料，査読有，第 127 輯，2011，pp104-119
15. 佐々木勇，専修寺蔵『入出二門偈頌』建長八年真佛写本の訓点について，ことばとくらし，査読無，第 23 号，2011，pp3-11
16. 佐々木勇，中世浄土真宗資料に見られる急・緩入声点と舌内入声音，広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部，査読無，60 号，2011，pp1-9
17. 沼本克明，写経と版経の本文の混交―東寺観智院金剛蔵と石山寺経蔵・高山寺経蔵との比較―，訓点語と訓点資料，査読有，第 127 輯，2011，pp172-185
18. 佐々木勇，親鸞遺文における「オハ」等の仮名遣い開始時期と異例について―漢文の訓点における実態調査とその位置づけ―，国文学攷，査読有，第 209 号，2011，pp1-11
19. 沼本克明，法華経音義における法華経漢訳陀羅尼字の扱い，安田女子大学大学院文学研究科紀要，査読無，第 16 集，2011，pp1-19
20. 沼本克明，高山寺経蔵の梵文法華経陀羅尼について，平成二十二年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集，査読無，2011，pp3-15
21. 小林芳規，日本のヲコト点の起源と古代韓国語の点吐との関係，汲古，査読有，57，2010，pp1-12
22. 小林芳規，日本의 오코토点의 起源과 古代 韓國語의 點吐와의 關係，口訣研究（韓国口訣学会），査読有，25，2010，pp21-45
23. 佐々木勇，親鸞と明恵の漢字音―漢字片仮名交じり文における比較―，広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部，査読無，第 59 号，2010，pp1-9

24. 佐々木勇，本願寺蔵『淨土三部經』正平六年存覺書写本の朱点について―親鸞自筆加点本および龍谷大学蔵南北朝期加点本との比較―，訓点語と訓点資料，査読有，第136輯，2010，pp34-48
25. 鈴木恵，授業の前提となる教材理解，授業の研究，査読無，第176号，2010，p38
26. 山本真吾，翻刻・翻字の限界―日本語史研究の立場から―，文学，査読無，第11巻第5号，2010，pp144-158
27. 山本真吾，「表白」という言語行為と文学表現，中世文学と隣接科学 2『中世文学と寺院資料・聖教』，査読無，2010，pp237-250
28. 山本真吾，平家物語諸本と中世語―延慶本の言語年代をめぐって―，国文論叢，査読無，43，2010，pp1-11

〔学会発表〕（計16件）
1. 佐々木勇，坂東本『教行信証』引用「大集経」依拠本と親鸞の欠筆について，ワークショップ「刊本大蔵経と日本古写経」，平成25年2月21日，国際仏教学大学院大学
2. 鈴木恵，「ことば」と身体運動について，中越国語教材を読む会，2013.1.19，アトリウム長岡
3. 山本真吾，古語をよみがえらせる―『古語大鑑』の新しさ，広島女学院大学公開講演会，2012年12月8日，広島女学院大学
4. 小林芳規，日韓比較訓読史を開拓するために―「乃至」の訓読を例として―，韓国口訣学会，2012年10月27日，韓国東国大学校萬海館
5. 小林芳規，日本における訓点研究の歩みと経蔵調査，韓国口訣学会，2012年10月27日，韓国東国大学校萬海館
6. 山本真吾，和漢混交文について，シンポジウム「言語と文化の間」，2012年9月16日，中華人民共和国、広東外語外貿大学
7. 山本真吾，斎宮のひらがな墨書土器といろは歌，斎宮跡シンポジウム，2012年4月29日，斎宮歴史博物館講堂
8. 青木毅，『方丈記』の用語と文体―副詞「いはば」の使用例が意味するもの―
広島大学国語国文学会，2011年11月27日，広島大学文学研究科
9. 小林芳規，日本所在の八・九世紀の『華厳経』とその注釈書の加点
第3回日韓訓読シンポジウム，2011年10月29日，麗澤大学
10. 佐々木勇，親鸞使用の声点加点形式について―坂東本『教行信証』声点の位置づけ―，第105回 訓点語学会，2011年10月16日，東京大学山上会館
11. 小林芳規，日本所在の八・九世紀の華厳経及びその注釈書の加点
韓国書誌学会，2011年10月7日，韓国ソウル市 国立中央図書館
12. 鈴木恵，新造の古語，新潟大学教育学部国語国文学会，2011年7月30日，新潟大学教育学部
13. 鈴木恵，古典教材の取り扱い方（２）―辞書に掲載された古語―
平成22年度中越地区国語教育研修会，2011年3月5日，アトリウム長岡
14. 小林芳規，宋版一切経に書き入れられた中国の角筆点―醍醐寺蔵本を基に東アジアの経典読誦を探る―，日韓訓読シンポジウム，2010年12月11日，麗澤大学
15. 小林芳規，宋版一切経に書き入れられた中国の角筆点―中国宋代の経典読誦の跡を探る―，醍醐寺秋期特別展記念講演，2010年10月24日，京都・醍醐寺
16. 青木毅，『水鏡』における漢文訓読語と和文語との混在について―〈漢文翻訳文〉における用語選択の問題として―，第102回訓点語学会研究発表会，2010年5月23日，京都大学文学部

〔図書〕（計6件）
1. 沼本克明，汲古書院，歴史の彼方に隠された濁点の源流を探る，2013，281頁
2. 小林芳規，汲古書院，平安時代の仏書に基づく漢文訓読史の研究Ⅳ　中期訓読語体系，2012，638頁
3. 小林芳規，汲古書院，平安時代の仏書に基づく漢文訓読史の研究Ⅲ　初期訓読語体系，2012，890頁
4. 小林芳規，汲古書院，平安時代の仏書に基づく漢文訓読史の研究Ⅰ　叙述の方法，2011，343頁
5. 佐々木勇，笠間書院，専修寺蔵『選擇本願念佛集』延書　影印・翻刻と総索引，2011，302頁
6. 山本真吾（共著），八木書院，尊経閣善本影印集成『新猿楽記』，2010，226頁

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　芳規（KOBAYASHI YOSHINORI）
広島大学・大学院文学研究科・名誉教授
研究者番号：10033474

(2)研究分担者
佐藤　利行（SATO TOSHIYUKI）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80178756

佐々木　勇（SASAKI ISAMU）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：50215711

沼本　克明（NUMOTO KATSUAKI）
安田女子大学・文学部・教授

研究者番号：40033500

月本　雅幸（TSUKIMOTO MASAYUKI）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：60143137

鈴木　恵（SUZUKI MEGUMU）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：60163010

原　卓志（HARA TAKUJI）
鳴門教育大学・ 大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：00173063

山本　真吾（YAMAMOTO SHINGO）
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号：70210531

山本　秀人（YAMAMOTO HIDETO）
高知大学・人文社会教育科学系・教授
研究者番号：30200835

青木　毅（AOKI TAKESHI）
徳島文理大学・文学部・准教授
研究者番号：70258317

(3)連携研究者
本田　義央（HONDA YOSHICHIKA）
広島大学・国際センター・准教授
研究者番号：80253037